

基本施策 21 交通環境の整備

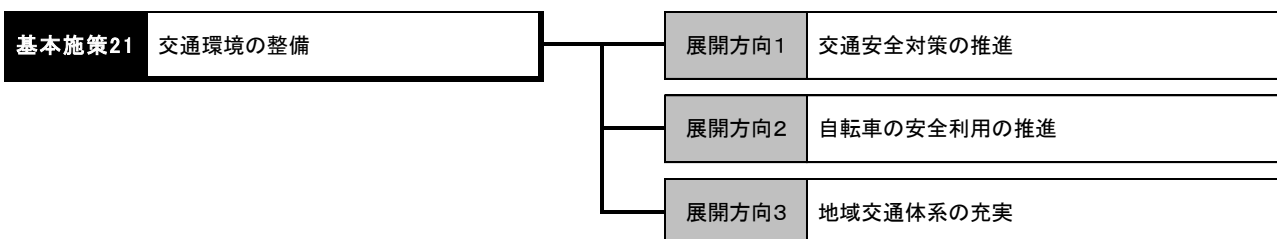
【施策統括課：交通課 主な関係課：福祉総務課】

<現状と課題>

- 現在、全国的に人口の急激な減少や高齢化の進展等を背景として、通勤や通学のために鉄道・バス等の公共交通機関を利用する人が減少し、特に路線バスを中心とした公共交通事業の規模の縮小やサービス水準の低下が大いに懸念されています。
- このような状況を踏まえ、国では、地域の総合行政を担う地方公共団体を中心として関係者の合意をもとに持続可能な地域公共交通ネットワークの再構築を図るため、平成25(2013)年12月施行「交通政策基本法」の基本理念に基づき、平成26(2014)年5月に「地域公共交通活性化及び再生に関する法律の一部を改正する法律」を施行しています。
- また、平成24(2012)年11月には国土交通省と警察庁の連名により「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」が策定され、自転車走行空間の整備とあわせ、全ての道路利用者に自転車の通行ルールを徹底するなど、ハード・ソフトの両面から取組を進め、自転車が安全で快適に利用できるとともに、歩行者の安全性が高まるような自転車利用環境の創出が喫緊の課題であるとされています。
- このような流れを受け、国立市では平成26(2014)年3月に「国立市地域交通計画」を策定し、だれもが安全で円滑に市内を移動するための交通(地域交通)の基本方針を定め、その実現に向けて徒歩、自転車、公共交通といった各交通モードを対象とした具体的な施策(アクションプラン)の推進を図ることとしています。
- 平成26(2014)年度に実施した「第15回国立市政世論調査」によると、「安全で便利な移動の確保と交通体系の充実」は、「評価できる」と「どちらかといえば評価できる」の合計値が66.7%、また、「特に力を入れてほしい」と「力をいれてほしい」の合計値が83.7%で、いずれも対象32施策の中で最も高くなっています。
- 今後、国立市においても急速に高齢化が進展すると見込まれることや、より多くの人々が市内で安心して子どもを産み、育てられる社会の実現が求められていることから、高齢者が安心して外出したり、安全に移動したりできるとともに、子どもたちを交通事故から守ることができるよう、きめ細やかで総合的な交通安全対策の強化が必要となっています。

<施策の目的及び体系>

だれもが安全に行き交うことができるとともに、超高齢社会を支え、駅や駅周辺地域へのアクセスしやすい地域交通を整え、より多くの市民が公共交通機関や自転車を積極的に利用できるまちを目指します。



<展開方向1：交通安全対策の推進>

【目的】

高齢者、しょうがいしゃ、子どもなどの交通弱者も安心して移動できる、交通事故のない環境を目指して整備を進めます。

【手段】

- ◆交通安全対策に関する総合的な計画を策定し、これに基づく取組を計画的に推進します。
- ◆子どもから高齢者まで広く市民を対象とした交通安全教室の開催等を通じ、交通安全意識の啓発と交通ルールの徹底を図ります。
- ◆交通事故防止の観点から危険箇所を解消する緊急性や必要性を踏まえながら、計画的に交通安全施設の整備を推進します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明又は出典元	実績値	目標値	
				H31年	H35年
交通人身事故の発生件数	件	国立市内の事故発生件数の報告	221 (H26年)	200	190

<展開方向 2 : 自転車の安全利用の推進>

【目的】

子どもから高齢者まで、だれもが安心して自転車を利用できる環境を整備します。

【手段】

- ◆ さくら通りや大学通りなど、既存の自転車走行空間との調和を図りながら、自転車利用者が安全で快適に通行できる自転車走行空間の整備を推進します。
- ◆ 民間事業者との連携・協働の下、「国立市自転車駐車場整備計画」に基づき自転車駐車場の整備を推進するとともに、放置自転車対策の強化を図ります。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明又は出典元	実績値	目標値	
				H31年	H35年
駐輪場の定期利用待機者数	人	自転車駐車場のキャンセル待ち人数	600 (H26年)	100	0
1日当たりの放置自転車調査台数	台	同左	122 (H26年)	100	80

<展開方向 3 : 地域交通体系の充実>

【目的】

市内の交通不便地域を解消し、だれもが使いやすい公共交通の確保・拡充を目指します。

【手段】

- ◆ 利用者ニーズ及び費用対効果を十分に勘案しながら、コミュニティバス「くにっこ」を含め市内公共交通機関(民間路線バス、タクシーを含む)の充実を図ります。
- ◆ 今後、増加すると見込まれる高齢者やしょうがいしゃの移動手段を確保するため、福祉的な交通の充実を図ります。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明又は出典元	実績値	目標値	
				H31年	H35年
コミュニティバス「くにっこ」の年間乗車人員	人	同左	268,178 (H26年)	285,000	300,000
福祉的な交通施策に満足している市民の割合	%	国立市市民意識調査	平成28(2016)年度中に実績値を把握し、目標設定予定		
公共交通が不便であると回答した市民の割合	%	国立市市民意識調査	30.2 (H26年)	25	20